

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「寄り添う」「粘り強い」教育を実践し、生徒一人ひとりの夢の実現をサポートするとともに、社会に貢献することのできる人材の育成を図る学校をめざす。地域連携事業、国際教育、キャリア教育、インクルーシブ教育を推進する。

2 中期的目標

- 1 次に示す各活動を通して、3つの力（新たな自分を創造する力、人間関係を大切にできる力、社会に貢献する力）と、礼儀やマナーを守る態度を身につける。エンパワメントスクールへの改編に向けて、①基礎学力定着のための5教科指導、②答えが一つでない問題を経験するエンパワメントタイム、③専門系列の授業内容を開発する。
 - (1) 学習活動の充実
「わかる授業」「楽しい授業」をめざすとともに、生徒が主体的に参加するアクティブラーニング型の学ぶチカラを養成する。
※グループ学習、少人数展開授業、公開授業、新しい教育機器活用等を通して授業力を向上させ、授業アンケート「授業展開」の平均値を4段階中3.05以上にする。(平成26年度3.04)
 - (2) 特別活動の充実
体育祭、文化祭、山海人プロジェクト等の全員参加型行事、国際交流、地域活動、イングリッシュメイトの活動等の希望参加型行事、さらには部活動、生徒会活動等を通して、新たな自分を創造する力、人間関係を大切にできる力を育成し、将来自らの幸せな生活を構築できるようにする。
※山海人プロジェクト、体育祭、文化祭等の全員参加型行事の事後アンケートにおける肯定意見70%以上を維持する。国際交流、地域活動等の希望者参加型行事の事後アンケートにおける肯定意見80%以上を維持する。
※学校教育自己診断における生徒のクラブの加入率を35%以上にする。(平成26年度27.5%) クラブ加入者の満足率70%以上を維持する。
 - (3) 人権教育、道徳教育に基づいたキャリア教育の充実と「寄り添う」「粘り強い」生徒指導の展開
人権を尊重する態度を身につけ、自己と他者を互いに尊重し社会で自立できる生徒を育成する。礼儀を重んじマナーを守る態度を身に付け、社会人として活躍することのできる人材を育成する。地域と連携しながら望ましい職業観を育成し、社会の一員として貢献することのできる人材を育てる。
※生徒向け学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が十分に行われている」を60%にする。(平成26年度56.1%)
※生徒向け学校教育自己診断における「高校にはいろいろなきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の否定的な意見を40%以下にする。(平成26年度51.4%)
※系統的なキャリア教育により、卒業時における進路未決定者を10人以下にする。(平成26年度卒業生のうち未決定者18人)
 - (4) コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援
コミュニケーション能力の育成を図り、円滑な人間関係の構築を支援する。
※必要に応じてケース会議を開く。 ※地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する。 ※ワープロ検定、英語検定等への参加者を毎年確保する。
※地域の小学校への点字の出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する。 ※台湾の高校との相互交流や、オーストラリアの高校とのテレビ会議など、国際交流事業を継続する。
- 2 インクルーシブ教育のさらなる展開
支援教育のノウハウの活用と障がいのある生徒一人ひとりの自立を支援するインクルーシブ教育のさらなる展開
※「高等学校における発達障がい等支援」事業に基づき（府事業）、個別的教育支援計画を必要な生徒に対して作成する。(平成26年度は7名分作成)
※「高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育」事業（国事業）の2年目の展開を、家庭科に加え情報科でも進める。
- 3 人材の育成と管理
 - (1) 若手教員の育成については、着任2年目に第一学年の担任になる初任者に対し、次年度第一学年担任団の任命を早期（2学期まで）に行い、具体的な準備を行うことを通してOJTを進めていく。また、早期に次年度担任を任命することにより、今年度の学年担任団からの引き継ぎをリアルタイムでできるようにする。特に、平成27年度の初任者は、平成28年4月から始まるエンパワメントスクール1期生の担任となるので、計画的で意欲的な準備や引継が必要となる。
 - (2) 教員全体の資質向上のため、同一の外部講師を定期的に招聘し、人権問題、教育相談、社会人教育など、必要に応じたテーマで講演会や研修を実施する。また、エンパワメントスクールへの改編に向けて、希望する教員に対して他校を訪問する機会をつくる。
- 4 地域連携 1(2)～(4)に含む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○ 寄り添う生徒指導の継続とより一層の充実 教育相談や頭髪指導・服装指導などへの積極的な取組みについて、教員の肯定的な回答が前年度より増加している。指導に対する生徒の理解は前年度同様厳しい状況であるが、「自分が努力したことを認めてくれたり、ほめてくれたりする。」は、全体ではわずかな減少、学年によっては増加していることから、寄り添う姿勢に対する生徒の評価は後退していない。今後とも、指導に対する理解も得られるよう、粘り強く寄り添う指導を継続していく。</p> <p>○ 授業改善のための組織的、計画的な取組みが必要 「わかる授業」の実現に向けた取組みについての肯定的な回答が減少している一方、授業におけるICTの積極的な活用が進められており、生徒の肯定的な回答も増加している。今後、授業改善にむけて組織的、計画的に取り組む必要がある。</p> <p>○ 学校運営へのより一層の参画と相互の連帯感の育成 「学校運営に教職員の意見が反映されている。」「校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている。」が増加している。一方で、「問題意識や悩みについて気軽に相談し合えるような職場の人間関係ができていない。」が減少しているなど、個別化の傾向がみられる。今後、校内研修などを通じて教職員間の連帯感の醸成を図る必要がある。</p>	<p>第1回 (5/25)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ エンパワメントスクール改編について <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒に対してきめ細やかな指導をしている。また、特色あるコースで興味を持たせることにも関心をしている。今後も子どもの興味・関心を引き出してほしい。 ○ 生徒指導について <ul style="list-style-type: none"> ・ 先生方が通学路で指導してくれていることで生徒の状況も変わり、地域では評価している。挨拶もしてくれるようになった。しかしまだ一部の生徒に、服装頭髪の違反、登下校や鉄道利用の際の問題行動が見られるので、指導をしっかりとしてほしい。 <p>第2回 (10/9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ エンパワメントスクール改編について <ul style="list-style-type: none"> ・ 入試制度も変わるが、頑張る生徒が入学できるような仕組みを考えてほしい。 ○ 生徒指導について <ul style="list-style-type: none"> ・ 一部の生徒の頭髪が乱れていることで、他の生徒に対する地域の方々の見方まで厳しくなっている。校則を守ることは社会でルールを守るのと同じ。厳しく指導すべき。 ○ 山海人プロジェクトについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒への事前指導が必要である。打合せへの生徒の参加についても検討してほしい。 <p>第3回 (3/17)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校教育自己診断について <ul style="list-style-type: none"> ・ 「問題意識や悩みについて気軽に相談し合えるような職場の人間関係ができていない。」が減少していることについては、いじめに組織的に対応するといった点からも憂慮すべきことである。 ・ かつては放課後に語り合えるような時間があったが、ゆとりがなくなってきたと思う。教科内で授業の見学をしあうなどお互いに意見交換をする時間を作るべきである。 ○ 生徒指導について <ul style="list-style-type: none"> ・ 一部の生徒の問題行動が課題であるが、概ね生徒が落ち着いてきている様子が見える。 ○ 山海人プロジェクトについて <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトの趣旨について、しっかりと引き継いでいくことが大切である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 (1) 学習活動の充実	「わかる授業」「楽しい授業」をめざし、アクティブラーニング型の学ぶチカラを養成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「国語」「数学」「英語」における少人数授業、公開授業、新しい教育機器活用等を通して基礎学力の定着と自ら考える力の育成をめざす。 ・H24年度のパッケージ研修で確認した、①学習環境を整え学習目標を明示して授業を始める、②身近な教材を取り上げ生徒の興味関心を引く、③メリハリ・テンポ・リズムのある授業を心がける、④考える・説明を聞く・黒板を写すなどを明確に分ける、⑤具体的にほめるという5項目の内容を教員が目標とする。 	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断における「少人数授業がよくわかる」を70%にする。(平成26年度65.4%)</p> <p>イ 生徒向け授業アンケート「授業展開」の項目において、全生徒の評価の平均が4段階中3.05以上にする。(平成26年度3.04)</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断の結果、「少人数授業がよくわかる」は、61.5%であった。(平成26年度65.4%) (△)</p> <p>イ 生徒向け授業アンケートの結果、「授業展開」の項目において全生徒の評価の平均は3.05であった。(平成26年度3.04) (○)</p>
1 (2) 特別活動の充実	<p>体育祭、文化祭、山海人プロジェクト等の全員参加型行事、国際交流、地域活動等の希望参加型行事、さらには部活動、生徒会活動等を通して、①新たな自分を創造する力、②人間関係を大切にする力、③社会に貢献する力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事に生徒の意見を取り入れたり、山海人プロジェクトなどの地域関連行事に学校協議会や地域の意見を取り入れたりして行事を進化させる。 ・台湾の高校との相互交流を継続(受入10名以上、訪問3名以上)し、交流内容の充実を図るとともに訪問受け入れ時の参加人数をできる限り増やすことを通して、生徒が異文化に触れる機会を広げる。平成26年12月実施したオーストラリアの高校とのテレビ会議の発展性を研究する。 ・エンパワメントスクールで英語国際系列を設置することを踏まえて、イングリッシュメイトの活動や英検受験奨励活動を継続する。 ・部活動や有志チームによる地域イベントへの参加貢献を継続する。 	<p>ア 山海人プロジェクト、体育祭、文化祭等の全員参加型行事の事後アンケートにおける肯定意見70%以上を維持する。</p> <p>イ 国際交流、地域活動等の希望者参加型行事の事後アンケートにおける肯定意見80%以上を維持する。</p> <p>ウ 部活動、生徒会加入者の満足度のアンケートを取り肯定意見70%以上を維持する。(平成26年度72%)</p>	<p>ア 全員参加型行事の事後アンケートの結果、体育祭の肯定的意見は、79%であった。文化祭についてはアンケート様式変更により単純比較できないが、肯定的意見は40%であった。(昨年度同項目の数値は41%) 山海人プロジェクトは雨天により中止。(○)</p> <p>イ 国際交流ワークショップが関連団体の事情により中止となった。(一)</p> <p>ウ 部活動、生徒会加入者の満足度アンケートの結果、肯定意見は73.5%であった。(平成26年度72%) (○)</p> <p>野球部が単独チームで、夏の大会予選に出場することができた。また、軽音楽部やイラストレーション部がコンテストで入賞したり、放送部によって昼休憩時の放送が行われたりするなど、文化部の活動も活発になってきている。</p>
1 (3) 生徒指導の展開	人権を尊重する態度を身につけ、自己と他者を互いに尊重し社会で自立できる生徒を育成する。礼儀を重んじマナーを守る態度を身に付け、社会人として活躍することのできる人材を育成する。地域と連携しながら望ましい職業観を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権ホームルームを通して円滑な人間関係を築く基本的なスキルを身につけさせる。 ・ボランティア活動をはじめ、地域の様々な奉仕活動に積極的に参加し、その活動を通して自己肯定感を高める。 ・山海人プロジェクトの内容として取り入れた、地域のお年寄りの話を聞く取組み「シニアクエスト」を継続させる。 ・1年時から、進路実現を目標としたHRを計画し、講演や施設見学などを実施し、職業観の育成に努める。 ・さまざまな人材を招いてのキャリア教育を計画し、実践する。 ・生徒の礼儀とマナーについての意見を学校協議会で聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が十分に行われている」を60%にする。(平成26年度56%) ・シニアクエストの取組みを継続させる。 ・卒業時における進路未決定者を平成27年度も10人以下にする。 ・生徒の礼儀とマナーについての学校協議会の意見を校外での生徒指導に反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断の結果、「人権を大切にするための学習が十分に行われている」は、50.4%であった。(平成26年度56%) (△) ・山海人プロジェクトが雨天により中止となった。(一) ・卒業時における進路未決定者は17人であった。(△) ・年度当初、鉄道の利用の際の問題行動に関して指摘がなされたが、全校集会を開いて、注意喚起したことにより改善された。(○)
1 (4) 関係構築への支援	コミュニケーション能力の育成を図り、人間関係を大切にすることを身につけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてケース会議を開く。 ・地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する。 ・ワープロ検定、英語検定、電卓検定等への参加者を毎年確保する。 ・地域の小学校での点字や紙芝居の出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な回数だけケース会議を開き一人ひとりに対応する。 ・ワープロ検定、英語検定、電卓検定等への参加者のべ100人以上を継続させる。 ・参加依頼のある岬町内のつつじ祭り、教育フェスタ等の地域行事に部活動や有志が1団体以上参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・恒常的に学年会で生徒の情報共有が行われており、必要に応じてスクールカウンセラーの助言を要請した。(○) ・ワープロ検定、英語検定、電卓検定等への参加者の延べ人数は365人であった。(◎) ・参加依頼のある岬町内のつつじ祭り、教育フェスタ等の地域行事に参加した。(○)
2 さらなる展開	支援教育のノウハウを活用し、障がいのある生徒一人ひとりの自立を支援するインクルーシブ教育をさらに展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生活支援カードを入学時に新入生全員に作成させる。 ・必要に応じて支援委員会を開催する。 ・必要に応じて一人ひとりの生徒について個別の教育支援計画を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生活支援カードの100%の提出(平成26年99%) ・特別支援検討委員会適宜開催。(平成26年度3回) ・必要に応じて個別の教育支援計画を作成する。(平成26年7人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生活支援カードの提出率は99%であった。(平成26年度99%) (○) ・特別支援検討委員会を3回開催した。(○) ・個別の教育支援計画を作成した。(6名) (○)
3 人の育成と管理	<ul style="list-style-type: none"> ・早期の役割分担によるOJTの推進。 ・教員研修の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度第一学年担任団の任命を早期(2学期まで)に行い、具体的な準備を行うことを通して人材育成を進めていく。 ・信頼できる外部講師を毎週1回程度招聘し、初任者、二年目、ミドルリーダーなどの少人数のグループを対象とした教員研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度校内人事の早期決定(1年担任を9月までに、その他の学年の担任を年内に任命)。 ・外部講師やミドルリーダーによる教員研修を年間20回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の担任を7月に決定し、公表した。その他の学年については、11月に公表した。(○) ・エンパワメントスクールへの改編に伴う学習会をはじめ、教育相談や支援教育に関する研修等を20回実施した。(○)
4 連携	1に含む	1に含む	1に含む	